「台湾守れる」認識浸透

松田康博 東大教授
（中台関係論）

蔡英文（ツァイインウェン）総統が勝利した要因は、中国が統一へ向けて圧力をかける中、明確に「ノー」と言うことができたことだ。若者を中心に、台湾を守れるのは民進党という認識が浸透した。国民党は中国への依存を強めているため、韓国瑜（ハングオユー）・高雄市長は煮え切らなかった。

候補者選びも重要だった。国民党は政治経験が少ない、ポピュリスト（大衆迎合主義者）とされる韓氏を選んだ。韓氏は選挙戦で具体的な政策の話を一切せず、ひたすら民進党批判を繰り返した。韓氏には熱狂的なファンはいる。しかし、総統としての資質に目を向けると、中道の有権者の間には韓氏に投票したくないという雰囲気が広がった。

蔡氏の堅実さを考えると、今後の4年間で現状を大きく変更することはないだろう。独立路線は目指さず、可能な限り中国を刺激しないよう努めていくはずだ。

ただ、台湾の主要な製造業者は中国大陸に拠点を置くなど、中国の影響力は強い。内政でしくじると支持が一気に落ちることも考えられ、蔡氏の政権のかじ取りは簡単ではない。

（国際部　川瀬大介）